

図書館等複合施設内カフェ運営事業者 公募型プロポーザル審査結果

<最優秀提案者及び優秀提案者の選定について>

標記プロポーザルに係る審査は、「図書館等複合施設内カフェ運営事業者 公募型プロポーザル実施要領」に基づき、第一次審査及び第二次審査の2段階方式により選定を行いました。選定にあたっては、専門的かつ公正な審査を行うため、学識経験者及び行政関係者で構成する審査委員会を設置しました。

参加表明書の提出があった3者に対していずれも参加資格を満たすことを確認後、第一次審査では、3者から提出された企画提案書について書類審査を行い、3者を第二次審査の対象者として選定しました。

第二次審査では、対象者3者と公開によるプレゼンテーション及びダイアログ（対話）を行い、第一次審査の評価点数に「企画提案の内容」の加算ポイント、「コミュニケーション能力」、「本業務の取組意欲」の観点を加えて総合的に審査し、以下のとおり最優秀提案者及び優秀提案者を選定しました。

なお、評価点数及び審査講評については別紙をご覧ください。

◎最優秀提案者 N I S C I R O

○優秀提案者 株式会社たかの

令和5年6月27日

<審査委員会>

委員長 平賀 研也（前県立長野図書館長）
委員 李 明喜（アカデミック・リソース・ガイド株式会社）
委員 渡辺 英明（小千谷市商工振興課長）
委員 佐藤 俊夫（小千谷市にぎわい交流課長）

図書館等複合施設内カフェ運営事業者 公募型プロポーザル 評価点数及び審査講評

1 評価点数

第二次審査対象者の名称（審査順）	第一次審査	第二次審査	合計点
有限会社ゴッチャドーロ	205	210	415
株式会社たかの	213	241	454
N I S C I R O	226	258	484

※第一次審査（300点満点）及び第二次審査（300点満点）の計600点満点（審査委員一人当たりの持ち点150点×4人）

2 審査講評

図書館等複合施設内カフェ運営事業者公募型プロポーザルを実施しましたところ、地元小千谷市で様々なかたちで「カフェ」や「食」に関わる営みに取り組みられてきた3つの事業者から意欲的なご提案をいただいたことは感謝にたえません。

審査委員会として、本事業が目指すもの、事業者選定のプロセスを振り返りつつ、審査の結果についてご報告し、審査講評といたします。

「暮らしのリ・デザイン」と共創 — 本事業の目指すもの

小千谷市が進める図書館等複合施設整備事業では、“わたしたちの施設づくり、まちづくり”を目指し、多様な人々と共に考え、思い（想い）を共有しながら、共につくっていく「共創」を大切にしています。そして、小千谷リビングラボ「at!おぢや」を立ち上げ、「共創」を実践する場として、市民、事業者、行政が対話しながら施設整備を進めています。

2022年（令和4年）10月に開催した、第10回小千谷リビングラボ「at!おぢや」では、施設内に整備される「食アンカー」（カフェ機能・スペース）について、具体的な活用のアイデアを企画するワークショップを行い、10のユニークな企画が提案され、大いに盛り上がりました。近年の図書館や公共施設の整備において、カフェは多くの方々が希望する機能・スペースですが、小千谷市民のみなさんは、単純に機能・スペースとしてのカフェがほしいということだけでなく、図書館にカフェがあることの意味や考え、カフェを通じてどんな体験、活動が起こったらよいかを想像されていました。新施設のカフェ機能・スペースの持つ可能性をあらためて感じました。

このように、本事業は市民の交流と創造を通じて、地域づくりを支えるこれからの公共空間を創造しようとするものです。「事業指針」でも示されている通り、施設づくりや施設運営に市民が主体的に参加する機会を創出し、協働しながら進めることで、利用者及び運営者の双方にとって使いやすく愛着の持てる空間づくりを行うことが重要です。そして、その先に「小千谷市民の暮らしをリ・デザインする」という、本事業の原点として大切にしている目標の実現があります。これはカフェにおいても一貫しています。

今回の審査においては、「共創」を通じての「暮らしのリ・デザイン」という取り組みの中で、飲食を提供するだけでなく、本施設やまちの日常の一部として、地域や人、産業とのつながりをつくり、憩いと交流が生まれるカフェ機能・スペースの創造を追求するに足る、企画力、営業力、運営力に加えて、共に創るコミュニケーション力を持った事業者であるかを評価の軸として選定を行いました。

事業者選定のプロセス

本事業は、上述の小千谷リビングラボ「at!おぢや」における市民のみなさんとの対話・創造と、図書館等複合施設の管理運営計画検討会議での議論・検討の、相互的な積み重ねの中で、プロポーザルのプロセスをデザインしていきました。

まずは、このカフェ運営事業者の公募においても、先行する情報環境構築業務公募型プロポーザルと同様に、プロポーザルに先立ち、事業者ごとのサウンディング型市場調査を実施し、事業者のみなさんに本プロジェクトへの理解を深めていただくとともに、事業体制構築や実装可能な技術についての相互理解を共有しました。一般的なサウンディング市場調査は質疑応答の範疇で留まることが多いですが、小千谷市で実施するサウンディングは対話と創造性を重視する形で、より深い相互理解につながっています。この結果、サウンディングに参加された事業者の中から、3事業者がプロポーザルに参加されることとなりました。

次に、書類審査の第一次審査、今回のプレゼンテーション第二次審査も「共創」のための対話を意識したプロセスといたしました。

第一次・第二次審査とも、審査（採点）・選定の責はあくまで各審査委員及び審査委員会にありますが、施設の事業運営にあたる小千谷市にぎわい交流課や建設課のメンバーも交えた意見交換の時間を設け、選定後に事業者と共に整備・運営が円滑に行われるよう意を払いました。

第二次審査のプレゼンテーションは一般公開とし、今後の「共創」の当事者となりうる市民のみなさんへの提案共有を図りました。また、審査委員と事業者間の企画提案に

対する質疑に留まらないダイアログを実施いたしました。各事業者ごとの70分にわたるダイアログは、カフェ整備・運営のための第一回企画会議のような形式としました。企画提案に対する理解を深めるとともに、双方が課題と考える点や企画提案が持つさらなる可能性を対等な立場で議論することで、共に創るパートナーとして互いの力量を見極めるためです。

審査の結果 — 共に創るパートナーとしてどのような点を評価したか

本プロポーザルには3つの事業者が参加し、ご提案をいただきました。審査委員会といたしましては、その中から、第一次審査、第二次審査の評点の合計をもって「NISCIRO」（協力事業者：hello shared）を最優秀提案者として選定いたしました。前記の選定プロセスにおける審査委員会における意見交換と評価の内容を各社ごとに概述いたします（プレゼンテーション順）。

（1）有限会社ゴッチャドーロ

有限会社ゴッチャドーロからのご提案は、小千谷市内で長年に渡り、飲食店を営んできた経験に基づく、「食」の原点としての「遊ぶ、楽しむ」の素晴らしさを再認識させられるものでした。こうした「食」こそが「地域の生活文化を美しく育み多様な価値観が共存する土壌を作る」というビジョンや、この場所ならではの景観を最大限活かそうという姿勢は、本事業の「暮らしのリ・デザイン」にも通ずるものとして評価されました。

他方、内装や設備に関するご提案がやや大規模であったため、工期が極めてタイトな本事業において、実現性に対する課題が指摘されました。

（2）株式会社たかの

次点となった株式会社たかのからのご提案は、隣地で営業しているスーパーで積み重ねてきた営みと、県内で展開する株式会社鈴木コーヒーとの連携を活かした、堅実な経営プランと多様な機能とサービスが評価されました。子供食堂や成果報酬型の学習機会のご提案は、本事業全体としても、地域全体としても、意味のあるプログラムになる可能性を感じるものでした。

また、小千谷リビングラボ「at！おぢや」にも積極的にご参加いただいていることで、市民のみなさんが抱えている、カフェに対する期待にも応えているものとして評価されます。

課題としては、メニューをはじめとして、ご提案内容の具体性が弱かったこと等が挙げられました。

(3) NISCIRO

優先交渉権者となった NISCIRO のご提案は、新施設におけるカフェの可能性を大きく広げる提案であったと評価されました。

「交差点としての役割」とは、決して抽象的な話ではなく、既存のお店で日常として営まれているリアリティを持った、魅力的なご提案でした。カフェ機能の方針として示している「(1) 食をハブにした地域循環の仕組みづくり (2) だれもが行きたくなる、魅力的な場とサービスデザイン (3) 小千谷市民の日常の一部となり、文化となる」を、具体的な形を持つストーリーとして感じることができました。

そして、何よりも人を大切にしていること、そして人と人とのつながりを大切にしているという理念と日々の実践が、新施設を共に創るパートナーとしての可能性を感じられたことも評価されました。NISCIRO を優先交渉者を選定したことは、カフェにおいても「共創」を進めていくという、小千谷市の意志をあらためて示すものでもあります。

3 おわりに

冒頭に記しました通り、小千谷市が進める図書館等複合施設整備事業は、今だからこそ可能な情報と人、人と人の出会い方を模索するチャレンジングな取り組みです。これからの公共空間のあり方には大きな未知の領域が広がっています。

本プロポーザルの審査においては、カフェという機能・スペースというアウトプットの形だけではなく、そこから生まれる営みや文化、それによって変わる地域の暮らしを、サウンディングからはじまった相互的な対話の中で、想像していくことに意を払いました。

新施設全体がそうですが、カフェも整備して終わりではありませんし、事業者任せにするものでもありません。事業者、行政、市民等の「共創」によって育てていく、持続性を持ったプロジェクトになります。より多くの方が一層注目し、小千谷リビングラボ「at!おぢや」などの対話の場にも参加されることを願っています。

図書館等複合施設内カフェ運営事業者

公募型プロポーザル審査委員会 審査委員長 平賀 研也